

令和6年度

外部講師を活用したがん教育等現代的な健康課題理解増進事業 事業成果報告書

【外部講師を活用して実施するがん教育の推進に係る取組】

1 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

① がん教育検討委員会について

1. 構成員

医師 1 人（静岡県医師会副会長 専門：内科、小児科、循環器科）、がん経験者 2 人（元学校関係者）、対がん協会事務局 1 人、患者会 1 人、行政 2 人（健康福祉部疾病対策課長、がん対策担当）、活用実践校 5 人（中学校教諭、小学校校長・教諭、特別支援学校副校長・教諭）、総合教育センター指導主事 2 人（高等学校保健体育、中学校保健体育）、県教育委員会事務局 4 人 合計 18 人

2. 開催時期、検討内容

<静岡県がん対策推進協議会>

期日：令和7年2月3日（月）、場所：静岡県庁

内容：静岡県のがん対策、事業概要の説明、教育委員会の取組計画、活用実践校における実施計画とがん教育の実践紹介（外部講師としての実践、患者会としての実践）、学校におけるがん教育の現状の共有と課題の検討

参加者：教育委員会代表 2 人

* 第 1 回がん教育検討委員会を計画していたが、日程及び会場の調整がつかなかったため、静岡県に設置されている協議会に教育委員会の代表が 2 人参加した。

<がん教育検討委員会>

期日：令和7年2月17日（月）オンライン 配信場所：静岡県男女共同参画センターあざれあ

内容：教育委員会の事業報告、活用実践校における実践報告、成果と課題の協議、来年度の事業計画と外部講師リストを活用した講師派遣についての協議

参加者：10 人

② 教育委員会としての取組

<研修会における先進的な事例の周知>

- ・ 養護教員講習会（8 月小中学校（南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）の発表により研修会を中止したため、がん教育理解のための動画視聴とした。）、8 月高等学校・特別支援学校）、保健主事研修会（9 月高等学校・特別支援学校、11 月小中学校（2 回））でがん教育について周知をした。高等学校・特別支援学校養護教諭、保健主事研修会では、令和 5 年度活用実践校が「がん教育実践報告」を行った。

<外部講師（医療関係者、がん経験者）の派遣>

- ・ 県教育委員会が窓口となり、希望学校に外部講師（医療関係者・がん経験者）の派遣を行った
- ・ 医療関係者の派遣：県立学校対象に日程調整を行った。

（派遣状況）事業活用：中学校 1 校 1 人（看護師 1 人）、

特別支援学校 1 校 1 人（教員研修：専門医 1 人）

事業未活用：高等学校 3 校（専門医 2 人、看護師 1 人）、

特別支援学校 5 校 6 人

中学部 1 校（専門医 1 人）、高等部 4 校（専門医 2 人、看護師 3 人）

- ・ がん経験者の派遣：県立学校、市町立学校の希望校に日程調整、事務手続、経費負担を行った。

（派遣状況）事業活用：小学校 2 校 4 人、中学校 2 校 3 人、高等学校 5 校 5 人、

特別支援学校 2 校 2 人；中学部 1 人、中学部・高等部 1 人

<がん教育研修会（教員・外部講師合同）の開催>

目的：静岡県や活用実践校のがんに関する取組を理解する。外部講師を活用したがん教育に対する理解を深め、学校でのがん教育の充実を図る。

期日：令和6年11月25日（月）、場所：グランシップ 会議ホール風

内容：伝達－国と静岡県のがん対策の取組とがん教育について、講義－外部講師（がん経験者）の学校と連携した取組、グループワーク

参加者：教員47人、外部講師9人、事務局2人 合計58人

<がん教育外部講師研修会の開催>

目的：外部講師による学校での取組の理解を深め、がん教育の充実を図る。

期日：令和6年12月20日（金）、場所：静岡県男女共同参画センターあざれあ

内容：活用実践校での取組報告、外部講師（がん経験者）による学校でのがん教育の取組報告、外部講師（がん経験者）一覧の検討、グループワーク

参加者：外部講師7人、事務局2人 合計9人

<外部講師名簿の更新と作成>

- ・医療関係者の名簿（22病院）：活用している名簿を更新した。
- ・がん経験者の名簿（24人、1団体）：令和8年度に公表できる名簿の検討をした。

③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

<静岡県健康福祉部医療局疾病対策課との連携：乳がん啓発動画の情報提供>

- ・静岡県健康福祉部医療局疾病対策課と中外製薬が共同で作成した乳がんの啓発動画を情報提供した。

<静岡県立がんセンターとの連携：公開講座開催の情報提供>

- ・静岡がんセンター主催の公開講座 2024～特別企画 10代から知っておきたいがんのお話～を情報提供した。（活用実践校 三島市立山田中学校にて活用した。）

<静岡県対がん協会との連携：外部講師（がん経験者）の登録促進>

- ・静岡県対がん協会が主催する「ピア・サポート研修会」にて、静岡県のがん教育の現状、外部講師の学校での取組、「学校におけるがん教育の手引」を紹介し、外部講師としての登録を依頼した。

(2) 外部講師を活用したがん教育の授業

【活用実践校における取組】

- ・活用実践校を中学校、小学校、特別支援学校各1校の合計3校を指定し、学校の実情に応じた外部講師を活用したがん教育に取り組んだ。次年度の研修会にて実践報告を行うとともに、「学校におけるがん教育の手引」に実践を追記する。
- ・医療機関及びがん経験者の外部講師派遣にかかる手続きは、県教育委員会が行い、講師謝金や旅費は、本事業予算から支出した。

<三島市立山田中学校>

○目的

- ・生徒が、生活習慣病についての知識を学習するとともに、生活習慣ががん予防に与える影響を理解する。また、がん教育を通して、がん患者やその家族が直面する課題や想いについて学び、生きることの意味や自他の命の尊さについて深く考えることができる。

期日・対象	実施科目等	内容
7月5日（金） 1・2年	学級活動 薬学講座	学校薬剤師による講演で、がんに関する正しい知識を広めるとともに、薬学の観点からその治療法や予防策についての理解を深めた。
9月25日（水） 1年	保健体育科 ・保健分野	健康な生活と疾病の予防 「がんの要因と予防」「がん患者の思いに触れる」（2時間）

		*本来、2年で扱う内容であるが、「健康の成り立ちと疾病の発 生要因」「生活習慣と健康」とのつながりを考慮して実施した。
11月7日(木) 3年	学級活動 地域医療 講座	三島市医師会長と副会長、NPO 法人ふじのくに乳がん交流サロン 代表による講演で、「がんの罹患率や生存率」「人生の締めくくりの 時期における支え合いの大切さ」を考えることができた。
11月8日(金) 3年	学級活動 命を考える 日	看護師(県教委にて派遣)による講演で、「がんに関する基礎的な 知識」「自身や家族の健康の大切さ」を学ぶことができた。
12月6日(金) 3年	学級活動 学校保健 委員会	がん経験者(県教委にて派遣)の講演で、これまで学んだ知識をも とに、「がんの予防や早期発見の大切さ」「自分らしく生きるために 必要なこと」を考える機会となった。

<焼津市立黒石小学校>

○目標

- ・健康教育の一環として、がんについて正しく理解するとともに、健康を守るために自分にできることを主体的に考え、実践しようとする。
- ・がんと向き合う方とのふれあいを通して、自他の健康と命の大切さに気づき、自己の在り方や生き方を考え、共に生きる社会づくりを目指す態度を養う。

期日・対象	実施科目等	内容
6月～2月 6年	総合的な 学習	「生きる」をテーマにした探究学習の中に位置付け、「生きること について考えよう～なりたい自分を見つける～」を単元名とし、が んを窓口として「健康、命、生き方」を学べるよう計画した。
11月8日(金) 6年	総合的な 学習	がん経験者による講演で、周りの人の支えによって闘病生活を送 り、人との出会いをきっかけに社会参加を果たし、「共生」の大切 さに気づくことができた。
11月14日(木) 6年	総合的な 学習	がん経験者(県教委にて派遣)による講演で、「正しい知識をもつ ことは自分自身を守ること、自分が生きていく力になること、がん を患う方を支える」ことにつながることを学んだ。
12月5日(木) 6年	総合的な 学習	がん経験者(県教委にて派遣)による講演で、「家族や周りの人を 支える、感謝する」という言葉の意味を深く理解すると共にこれま での講演をより身近な事柄として考えることができた。

<静岡県立浜松視覚特別支援学校>

○目的

<幼児児童生徒、教員>

- ・がん教育を通して、健康と命の大切さを主体的に考えることができるようにする。
- ・研修や授業、講演会を通して健康についての意識を高める。

<教員>

- ・がん教育の目標や位置づけ、具体的な内容、留意点などを正しく理解する。
小児がん等により視覚に障害が生じた幼児児童生徒がいるため、それぞれに配慮していくために、が
ん教育に対する教師の正しい理解が必要であると考え、教職員研修を設けた。
- ・がん教育の視点を取り入れ、健康と命の大切さを育む授業づくりを行う。

期日・対象	実施科目等	内容
7月24日(水) 教職員	校内研修	がん専門医(県教委にて派遣)による講演で、「がんの基礎知識」を学ぶとともに、「小中学校での実践例の紹介」により、がん教育の授業のイメージをもつことができた。
9月13日(金) 高等部(普通科1～3年)	保健体育科 ・科目保健	テーマ「健康を考えよう～がん教育を通して～」 がんの基礎知識について、生徒が主体的に考えることができるようクイズ形式やワークシートを活用した授業とした。
9月20日(金) 中学部、高等部 (普通科、専攻科)保護者	学級活動	がん経験者(県教委にて派遣)による講演で、健康診断や治療法、仕事への向き合い方、家族との絆について学んだ。保護者も参加できるように参観会の日に設定したことで、家族で健康について考えるきっかけをつくることができた。

2 事業の達成度について

- ① 学校保健計画への位置づけは、全校種で上昇した。
(静岡県調査 R4→R5→R6) *R6のみ暫定値
小学校：50.0→51.1→58.6%、中学校：54.2→61.4→65.1%、高等学校：49.5→53.1→59.5%)
・教育委員会が窓口となり外部講師(医療関係者・がん経験者)の派遣を行ったが、派遣者数はこれまでで最多であった
- ② 研修
・様々な研修会において、がん教育の考え方や実践事例等を周知することができた。
・教員と外部講師合同のがん教育研修会では、講話として外部講師(がん経験者)の学校での取組を取り入れた。グループワークでは、外部講師(がん経験者)または外部講師活用経験のある教員がグループに入るようにし、外部講師の活用の実際を聞くことができるようにすることで理解の深めることができた。
- ③ 外部講師(がん経験者)の確保
・外部講師(がん経験者)の登録者に外部講師としての活動に興味のある方を紹介してもらったり、静岡県対がん協会が主催する「ピア・サポート研修会」にて、静岡県のがん教育の現状、外部講師の学校での取組、『学校におけるがん教育の手引』を紹介し、登録を依頼したりすることで、本年度新たに4人増加した。 *登録者 令和6年4月：19人、1団体 → 令和7年2月：23人、1団体

<活用実践校における成果>

- ・がん教育を通して、がんに関する知識を深めるとともに、自分自身や家族の健康について考え、行動に移す姿が見られるようになった。「野菜を意識して食べるようになった」「スマホを使う時間を減らして睡眠をしっかりとる」など具体的な行動の変容が見られた。また、学習を通して家族と健康について話し合うことの重要性が伝わり、家族内で健康について考えるきっかけを提供することができた。さらに、がん患者等の体験談に触れたことで、命の尊さや家族のつながりを改めて考える機会となった。(三島市立山田中学校)
- ・「生きる」をテーマとした総合的な学習の時間での取組では、探究のプロセスの繰り返しの中で、子供たちは、生き生きと生きるための「健康」、大切な存在としての「命」、自分自身の「生き方」、互いに尊重すべき「生き方」というようにがん教育のキーワードについて概念を深めることができた。(焼津市立黒石小学校)
- ・保護者への理解を求める際に、「命に関わる学習はぜひ大切に扱って欲しい」「がん教育の指定を受けたことは、子供たちにとって命に関わる考えを深めるチャンスと捉えたい」という意見があった。保護者の理解のもと進めたことでがん教育の効果が表われたと考える。

- ・授業では、各学部の実態に合わせて内容を考えて、取り組むことで健康についての知識を高めることができた。(浜松視覚特別支援学校)
- ・職員の全体研修を通して、がんへの知識が「とても深まった」「深まった」と答えた教員が100%であった。また、実態に合わせた授業実践につながった、自身の健康について考えるきっかけとなったという感想も多くあった。(浜松視覚特別支援学校)

3 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題等）

① 学校保健計画への位置づけたがん教育の実施

- ・学校保健計画への位置づけは、全校種で上昇しているが、静岡県がん対策推進計画では令和11年度には、位置付け100%を目指しているので、研修会での伝達方法などを工夫して位置づけを促す。

② 活用実践校における外部講師（がん経験者）を活用した取組

- ・外部講師のうち、がん経験者を活用した学校が少ないことから、令和7年度も本事業を活用し、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校に対しがん経験者を活用した実践を依頼するとともに、事例の周知を図る。活用実践校における子供たちの変容や配慮内容、保護者への理解なども研修会にて具体的に伝えていくとともに、昨年発出した「学校におけるがん教育の手引」への記載を行う。

* 文部科学省 令和5年度学校保健関係調査 本課での集計最新値

外部講師を活用したがん教育実施率 小：16.5%、中：12.0%、高：12.8%

このうち、外部講師職種別活用率（全体） 医療関係者 83.2%、がん経験者 16.8%

③ 外部講師（がん経験者）の活用の推進

- ・どの学校でも活用できるように、公表可能な外部講師（がん経験者）一覧を検討し、令和8年度から公表できるよう整備する。
- ・外部講師（がん経験者）の登録者の半数が県東部地区に集中しているため、他の患者団体との連携を図り、登録者数を増やす。また、登録者数を増やすために、「学校におけるがん教育の手引」をホームページに記載することも検討していく。
- ・一覧に登録されているがん経験者の派遣は、謝金や旅費等の予算の確保が学校の課題であるため、本事業を活用して、県立学校、市町立学校の希望校に、県教育委員会において日程調整、事務手続、経費負担を行い、派遣を行う。対象校は、本年度の10校から15～20校程度に増やす。
- ・教員と外部講師の合同研修である「がん教育研修会」と外部講師対象の「がん教育外部講師研修会」を実施する。本年度実施できなかった「がん教育授業参観会」を計画し、外部講師の指導力の向上のため取り組む。